

第22回岩沼市中学生海外派遣事業

# ドーバー市訪問団 訪問レポート

ドーバー市訪問団が、3月9日～20日の日程で、友好都市アメリカ合衆国デラウェア州ドーバー市などを訪れました。学校での文化交流やホームステイを通し、両市の友好を深めました。

◀ドーバー市役所前での記念写真



訪問団員（敬称略）

団長

鈴木孝徳（岩沼西中学校教諭）

引率

吉田麻梨（市職員）

リーダー

白沢岳杜（玉浦中学校3年）

サブリーダー

牧野秀哉（東北学院中学校2年）

団員

安部真白（岩沼中学校2年）

大石怜和（岩沼中学校2年）

加藤すみれ（岩沼北中学校1年）

河野巖音（岩沼西中学校3年）

小林莉奈（岩沼中学校2年）

平野心晴（尚綱学院中学校2年）

平間さくら（岩沼中学校2年）

福田あかり（岩沼北中学校2年）

宮城教育大学との連携協力の

覚書に基づく派遣学生など

（敬称略）

事前研修から現地まで団員たちを支えていただきました。

市瀬智紀（教授）

本田愛里奈（教育学部1年）

青山礼奈（教育学部3年）

三村育生（教育学部3年）

※所属・学年は令和8年3月時点。

## 学校訪問交流

玉浦中 白沢 岳杜

海外留学における文化交流では、発表と体験の両面で学年による違いが見られました。発表では、現地の中学生は落ち着いて内容を理解しようとし、小学生は積極的に反応する様子が見られました。また、文化体験として行ったかるたでは、素早く札を取ろうとする姿が印象的で、楽しみながら日本文化に触れていると感じました。

## ホストファミリー

東北学院中 牧野 秀哉

僕はいつも明るく笑顔が絶えないボイドファミリーの一員として過ごしました。ファミリーは、僕を温かく迎えてくれてとても親しみやすかったです。文化や価値観の違う生活は、最初は不安もありましたが、食事の時にファミリーと積極的に話して仲良くなれました。ホストファミリーと過ごした経験は宝物です。



▲身を乗り出して話を聞く現地の小学生



▲ホストファミリーとの記念写真

## 岩沼とドーバー、未来へつなぐ感謝と絆の訪問記

団長 鈴木 孝徳

岩沼市中学生海外派遣事業のドーバー市訪問団は、両市の友好の架け橋として、期待を大きく上回る成果を収めて帰国しました。私たち訪問団はデラウェア州知事やドーバー市長への表敬訪問、さらにドーバー空軍基地を訪れるという貴重な機会を得ました。特に空軍基地では、東日本大震災時の「トモダチ作戦」に対する感謝の意を団員たちが直接伝え、時を経ても色あせない両国の絆を改めて深く刻む時間となりました。

現地の学校「CCS」や「DMS」での交流では、書道やけん玉といった日本文化の紹介を行いました。当初、団員たちは慣れない環境と英語に圧倒され、発表も緊張で硬くなってしまっ場面がありました。しかし、現地の児童・生徒たちの熱烈な歓迎に支えられ、自らの壁を乗り越えていききました。そのひたむきな努力は、

現地の教職員から「誇りに思うべき素晴らしい生徒たちだ」と称賛されるほどの感動を呼び、大成功を収めました。

また、ホームステイを通じて「家族の一員」として過ごした時間は、団員たちに世界の広さと多様な価値観を肌で感じさせ、一生の財産となる一期一会の出会いの尊さを教えてくれた、かけがえない経験となりました。

この訪問の成功は、岩沼市とドーバー市の未来を明るく照らす確かな歩となりました。現地で育んだ深い友情と、困難を乗り越えた自信を糧に、団員たちが次世代のリーダーとして成長していくことを確信しています。

※CCS（キャンパスコミュニティスクール）、DMS（ドーバーミドルスクール）はホストスチューデントが通う学校です。



①体験交流の様子 ②文化発表の様子 ③学校のカフェテリアでの食事  
④ドーバー市長訪問 ⑤さよならパーティーの様子 ⑥デラウェア州知事訪問